

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	04-02-05-03
事務事業名	産業功労者表彰事業	根拠法令・要綱等	備前市産業功労者表彰規定
事業開始年度	S46~	問合せ先	担当課(室) 商工観光課 職・氏名 商工労政係長 中島 和久 電話 0869-64-1832
総合計画	大項目 基本目標	もてなしの心とたくましさのあるまちづくり	
	中項目 基本施策	起業と創造が支えるまちづくり	
	小項目 施策	勤労者福祉(福利厚生)の充実	

事業の実施	対象(誰・何に対して)	市内商工業各種産業に永年従事する者
	目的(何のために)	市の産業発展に寄与し、市民の模範となる者についてその功績を表彰し、もって市の産業を一層進展させる。
	行政活動(どのような方法で)	市内商工業等各種産業に永年従事し、市民の模範となる者についてその功績を表彰する。
	事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	優良従業員を表彰することにより、勤労意欲の向上を図るとともに、市民の模範となるべく者を広く公表し、市の産業発展につなげる。

事業の実績					
活動実績	実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	被表彰者数(市長表彰)	人	31	30	23
	直接事業費	千円	264	234	173
	人件費	千円	1,130	1,404	501
	事業費計	千円	1,394	1,638	674
	国県支出金	千円			
	受益者負担	千円			
	市一般財源	千円	1,394	1,638	674
	必要人員	人	0.13	0.15	0.06
	結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
被表彰者数(市長表彰)	説明				
結果指標	結果指標量	人	31	30	23
	対前年比	%	-	96.8%	76.7%
	活動コスト	円	1,394,000	1,638,000	674,000
	単位当たりコスト	円	44,968	54,600	29,304
結果指標	結果指標量	人			
	対前年比	%			
	活動コスト	円			
	単位当たりコスト	円			

事業の成果			
成果指標名	被表彰者数(市長表彰)	式又は説明	産業功労者表彰(市長表彰)を受けた者
	17年度	18年度	19年度
成果指標量	31	30	23
対前年比		96.77%	76.67%
到達目標値	25	到達目標年度	毎年度

事業の目的、対象、内容を考えてながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成19年度事業)	
目的	開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	妥当性評価<A~E>	C
	現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である	課題認識	
対象	事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	市の産業発展に寄与し、市民の模範となる者について、その功績を表彰することにより、市の産業の進展を図ることは妥当である。	
	事業開始当初の目的から変化している		
行政活動	対象を見直す必要がある	市の産業発展に寄与し、市民の模範となる者について、その功績を表彰することにより、市の産業の進展を図ることは妥当である。	
	事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない		
事業の意図する成果	現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない	市の産業発展に寄与し、市民の模範となる者について、その功績を表彰することにより、市の産業の進展を図ることは妥当である。	
	市民、団体などから要望・要請の強い事業である		
市の関与	本市が関与しなければならない事業である	市の産業発展に寄与し、市民の模範となる者について、その功績を表彰することにより、市の産業の進展を図ることは妥当である。	
	事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい		
コスト	コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい	効率性評価<A~E>	B
	コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい	課題認識	
効率性の評価	サービスを低下させずにコストを低減することは困難	他団体の永年勤続功労者表彰と合同で表彰式を行うことにより、コスト削減、効率性の向上に努めている。	
	受益者負担額を見直す余地がある		
職	事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている	他団体の永年勤続功労者表彰と合同で表彰式を行うことにより、コスト削減、効率性の向上に努めている。	
	事業に関するOJT(職場研修)は行われている		
目的達成度	事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい	他団体の永年勤続功労者表彰と合同で表彰式を行うことにより、コスト削減、効率性の向上に努めている。	
	成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである		
有効性の評価	成果指標は前年度より向上している	有効性評価<A~E>	C
	成果は向上しており今後も向上する見込みである	課題認識	
市民参画度	今後、成果指標は向上する余地がある	被表彰者は年度により増減するが、有効な事業であると考えられる。	
	事業について積極的に情報提供している		

平成20年度の状況		説明	他団体との合同により、コスト削減、効率性の向上を図りながら、前年と同様に実施する予定である。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している		
<input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している		
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で真正・完了		
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している			
目標値	結果指標量 25(人)	結果指標量	
	成果指標量	結果指標量	25(人)

総合評価	評価区分<A~E>	C	
産業功労者表彰は、労働者の勤労意欲の向上を促し、産業発展に有効な事業ではあるが、コスト削減が限界にきていることから、廃止又は縮小、表彰基準の見直し等を検討する必要がある。			

平成21年度以降の方向性		<input type="checkbox"/> さらなる重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する	<input type="checkbox"/> 平成20年度で真正・完了

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
有効性	表彰基準の見直し	H22	経費節減